

千葉県環境学習等行動計画に係る関連事業の実施状況について

令和 6 年 1 1 月 1 日

循環型社会推進課

本県の環境学習等の推進については、令和 3 年 3 月に策定した「千葉県環境学習等行動計画」に基づき、計画指標の達成状況や各種施策の実施状況を千葉県環境審議会へ報告し意見を伺うこととされていますので、下記のとおり報告します。

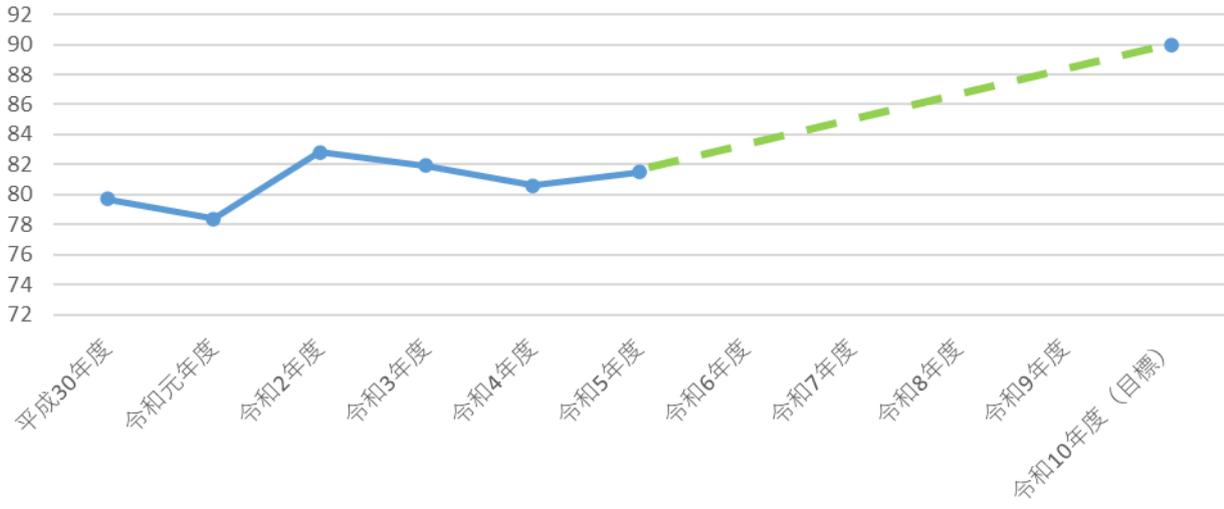
なお、結果については、千葉県環境白書やホームページ等で広く公表します。

1 計画指標の達成状況

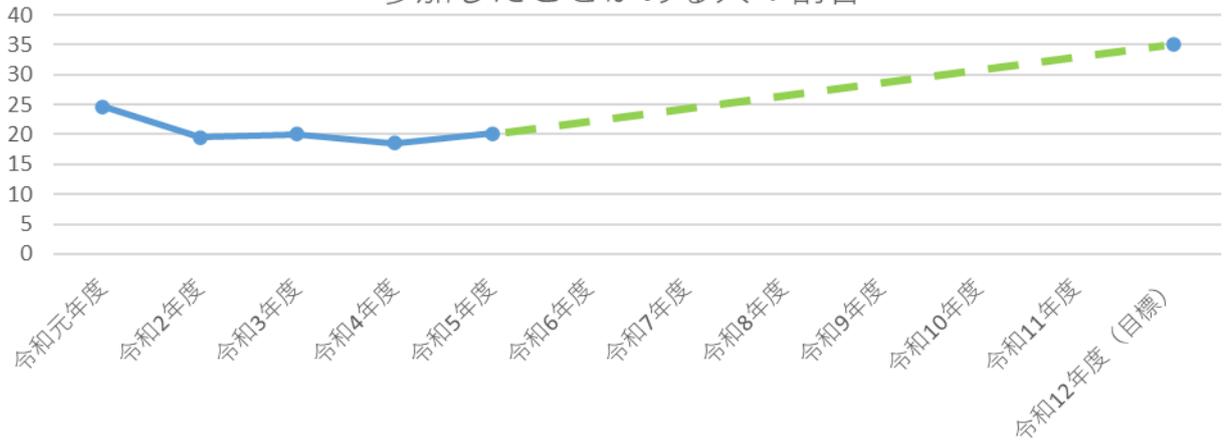
計画指標	基準 [年度]	R 3	R 4	R 5 (現況)	目標 [年度]
①日常生活の中で環境に配慮して行動している人の割合	79.7% [2018 (H30) 年度]	81.9%	80.6%	81.5%	90.0% [2028 (R10) 年度]
②環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティアへ参加したことがある人の割合	24.6% [2019 (R元) 年度]	20.0%	18.5%	20.1%	35.0% [2030 (R12) 年度]
③県が主催・共催する環境学習に関する行事の参加者数	24,590 人 [2017 (H29) 年度]	125,011 人 (会場参加数 12,993 人 オンライン視聴数 112,018 人)	103,717 人 (会場参加数 8,940 人 オンライン視聴数 94,777 人)	109,211 人 (会場参加数 14,049 人 オンライン視聴数 95,162 人)	25,000 人 [毎年度]

- ・①環境に配慮して行動している人の割合は、令和 2 年度以降 8 割を超えて推移しており、習慣として定着していることが推察されるが、目標達成には至っていない。
- ・②セミナー等へ参加したことがある人の割合は、新型コロナウイルス感染症の影響により下落し、令和 4 年度から令和 5 年度にかけては回復したが、目標達成には至っていない。
- ・③県が主催する行事の参加者数は、基準に含まれる環境講座が令和元年度に動画移行、エコマッセちばが令和 2 年度以降オンライン開催したことに伴い、動画視聴者数も含めて掌握しており、令和 2 年度、令和 3 年度にかけて大きく伸びたものの、令和 4 年度以降は平準化しつつある。

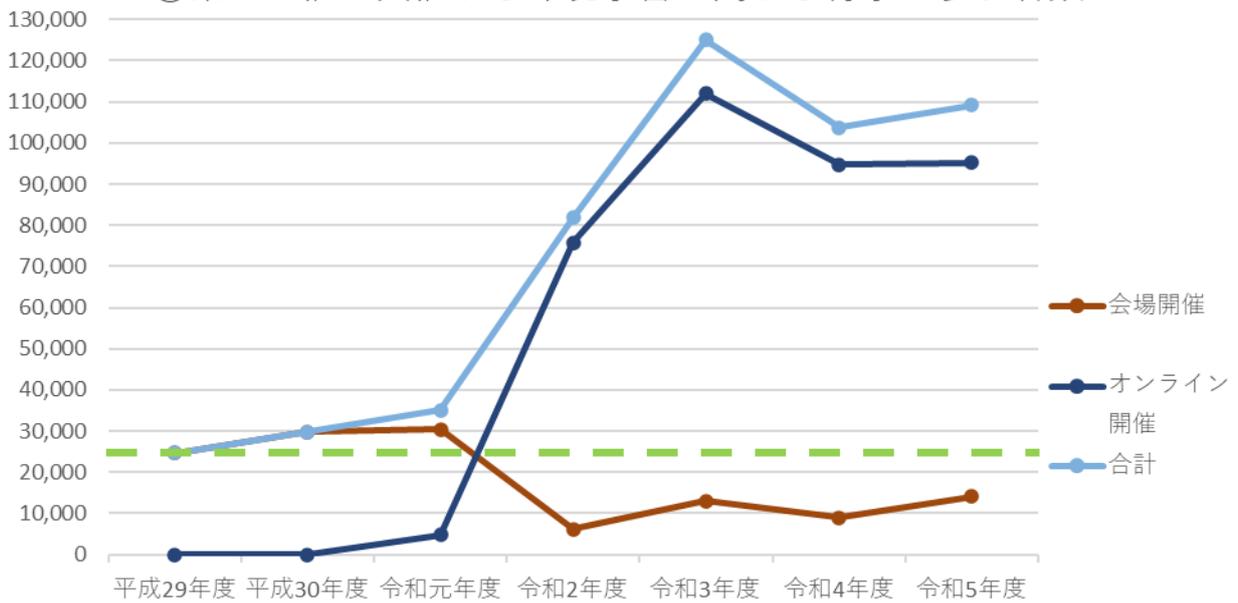
①日常生活の中で環境に配慮して行動している人の割合



②環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティアへ参加したことがある人の割合



③県が主催・共催する環境学習に関する行事の参加者数



2 関連事業の実施状況（別紙「千葉県環境学習等行動計画 関連事業取組実績一覧」から抜粋）

1 人材の育成と活用

【取組の方向性】

子どもから大人まで幅広い世代において、環境問題を自らの問題として理解し、主体的に行動できる人材を育成するため、家庭、学校、職場、地域などあらゆる場において環境学習等に取り組む指導者や、多様な主体間の調整やネットワークづくり等を担うコーディネーターの育成・活用に取り組むとともに、若者や子どもたち等、次代を担う人材の育成を進めます。

【主な取組】

（1）学校や地域における指導者等の育成

No1 環境教育指導者養成研修（循環型社会推進課）

森林環境教育プログラム「LEAF」*を取り入れ、SDGsの考え方を盛り込んだ体験型の研修を実施した。

令和5年度 教員向け：1回実施 17名参加 NPO等の指導者向け：2回実施 24名参加

令和4年度 教員向け：1回実施 11名参加 NPO等の指導者向け：2回実施 25名参加

令和3年度 教員向け：1回実施 11名参加 NPO等の指導者向け：1回実施 15名参加

*「LEAF」とは

もともとは北欧の林業業界が開発したプログラムで、持続可能な未来のためには消費者となる次世代の子どもたちへの教育が不可欠だという考えから始まったもの。

2000年から国際NGO FEEのプログラムの1つに位置付けられ、現在は世界28か国で実施されている。単なる自然体験ではなく、体験と知識共有のプロセスを通じ、森林の4つの側面「文化的、生態学的、社会的、経済的役割」について考える内容となっている。

No2 地球温暖化防止活動推進員への研修（温暖化対策推進課）

地球温暖化防止活動推進員の知識・技能の向上を図るための研修を実施した。

令和5年度 研修参加者数：231名

令和4年度 研修参加者数：279名

令和3年度 研修参加者数：366名

（2）次代を担う若手人材の育成

No6 若者が主役の環境保全活動応援事業（循環型社会推進課） ※令和5年度から開始

若者の創意工夫による環境保全活動のアイデアコンテストを開催し、活動への支援を行うことで、次代の環境活動をリードする若手人材の育成を図った。

令和5年度 応募9件 表彰3件

順位	団体名	企画名称
1位	成田日本蕎麦復活チーム 千葉県立成田西陵高等学校園芸科作物専攻	蘇れ！耕作放棄地 ～日本蕎麦に託す私たちの想い～
2位	学生団体グリーンベース	里山活用コミュニティ 「グリーンベース」
3位	千葉大 NESO	地域の特色を生かした自然体験型 学習プログラムの画策

No5 環境教育モデル校事業（循環型社会推進課） ※令和4年度で終了

環境に関連する教科や部活動などにおいて、環境保全活動の実践に取り組む県立学校を千葉県環境教育モデル校に指定。活動への助成を実施し、活動成果報告会を书面開催した。

令和4年度 4校をモデル校に指定

- 浦安南高等学校 東京湾最奥部高洲の海の生物及び環境調査
- 多古高等学校 共生水田を目指して～耕作放棄水田の活用～
- 旭農業高等学校 養鶏から始めるこれからの循環型農業の形
- 大原高等学校 アクアポニックスシステムを活用した食料生産と環境教育の実践

令和3年度 3校をモデル校に指定

- 柏中央高等学校 柏市松ヶ崎地区の生物相調査と地域への普及活動プロジェクト
- 下総高等学校 発酵肥料を利用した下総高校エコ野菜プロジェクト
- 大原高等学校 アクアポニックスシステムを活用した食料生産への取り組み、環境教育の実践

(3) 指導者等の人材の活用

No11 ちば環境学習応援団（循環型社会推進課）

登録団体を募集するとともに、県民等の環境学習に活用されるよう、広く制度の周知を行った。

- 令和5年度 登録団体数：延べ28団体、活動回数326回 6,500名受講
- 令和4年度 登録団体数：延べ27団体、活動回数157回 3,139名受講
- 令和3年度 登録団体数：延べ23団体、活動回数211回 7,038名受講

(4) 県の率先取組

No13 職員によるフードドライブの実施（循環型社会推進課）

家庭で余っている食べ物を職員が持ち寄り、フードバンクちばに寄附を行った。

- 令和5年度 実施回数3回 計73.6kg 寄附
- 令和4年度 実施回数3回 計188.9kg 寄附
- 令和3年度 実施回数3回 計63kg 寄附

No14 SDGsセミナー（自治体職員向け）（政策企画課） ※令和4年度で終了

自治体職員（県職員・市町村職員）向けSDGsセミナーをオンデマンドにて開催した。

なお、令和4年度をもって行政職員向けのセミナーは廃止し、令和5年度からは県内企業等を対象としたSDGsセミナーの対象に行政職員を含む形で整理した。

- 令和4年度 実施期間：令和5年2月22日～令和5年3月31日 視聴回数：710回
- 令和3年度 実施期間：令和3年9月7日～令和3年11月8日 視聴回数：6,673回

2 情報発信・普及啓発

【取組の方向性】

様々な世代や主体が、環境学習等に関する必要な情報を必要な時に容易に入手でき、情報が共有できるよう、各主体と連携・協働して情報提供体制を整備するとともに、インターネットや各種メディアを活用するなど、時代のニーズに合わせた効果的な情報発信・普及啓発を行います。

【主な取組】

(1) 環境学習等に関する情報の集約・提供

No15 ホームページによる省エネ・節電情報の提供（温暖化対策推進課）

国や県における省エネ・節電に関する情報等を県ホームページにて公開した。（令和5年度、令和4年度、令和3年度）

No16 環境研究センター・環境だよりの発行（環境研究センター）

県民や関係機関がセンターの研究活動等を理解し関心を持つことを目的として発行した。

令和5年度 発行回数：2回

令和4年度 発行回数：2回

令和3年度 発行回数：2回

（2）時代のニーズに合わせた情報発信・普及啓発

No24 印旛沼・手賀沼及びその流域における特定外来水生植物の防除・拡散防止に係る普及啓発資料の作成（水質保全課）

印旛沼・手賀沼の外来水生植物対策についてウェブページ、X（旧 Twitter）での情報発信を行った。（令和5年度、令和4年度、令和3年度）

No32 3R推進事業（循環型社会推進課）

環境月間や3R推進月間などの機会を捉えた啓発活動を行い、「ちばエコスタイル」の普及に取り組んだ。令和5年度には、「ちばエコスタイル」の見直し^{*1}を行うとともに、新たにちばエコスタイルパートナー登録制度^{*2}を創設した。

令和5年度 ちばプラごみ削減パートナー登録事業者数 42 事業者 2,273 店舗

ちば食品ロス削減パートナー登録事業者数 81 事業者 3,429 店舗

令和4年度 ちばレジエコサポーター数：39,298 名

ちばマイカップ・マイボトル協力店舗数：510 店

ちば食べきりエコスタイル協力店舗数：514 店

令和3年度 ちばレジエコサポーター数：38,231 名

ちばマイカップ・マイボトル協力店舗数：509 店

ちば食べきりエコスタイル協力店舗数：509 店

※1 「ちばエコスタイル」の見直しについて

県では、ごみ削減のために身の回りのできることを実践するライフスタイル「ちばエコスタイル」を平成20年度から推進してきたところ。

近年、海洋プラスチックごみ問題や食品ロス問題への関心の高まり、関連する新たな法律の制定などを受け、より一層の取組が求められていることから、令和5年度に「ちばエコスタイル」を拡充・リニューアルした。

- ・買い物時におけるマイバックの持参をすすめる「ちばレジ袋削減エコスタイル」と、ペットボトルをはじめとする使い捨て容器に替わるマイボトル等の利用をすすめる「ちばマイボトル・マイカップ推進エコスタイル」を統合し、対象となる取組を拡充して「ちばプラごみ削減エコスタイル」とした。
- ・食べ物がごみになる量を減らすことを推進する「ちば食べきりエコスタイル」を、対象事業者の範囲を小売・飲食店のみから生産・製造・卸売も含め拡充した。

※2 「ちばエコスタイルパートナー登録制度」について

「ちばエコスタイル」の見直しに伴い、付随する協力事業者登録制度について、対象事業者の範囲や取組内容の拡大をそれぞれ行った。

- ・ちばレジエコサポーター → 個人対象のため廃止
- ・ちばマイボトル・マイカップ登録事業者 → ちばプラごみ削減パートナー
- ・ちば食べエコ協力店 → ちば食品ロス削減パートナー

3 プログラム・教材の整備

【取組の方向性】

子どもから大人まで幅広い世代が、遊びや体験を通じて環境への関心を高め、課題解決のために自ら考え、具体的な行動へと結びつけられるよう、本県の自然や文化、産業等の地域資源を活かしながら、発達段階や学習段階に応じた体系的な環境学習プログラム・教材の整備・活用を図ります。

【主な取組】

(1) プログラム・教材の作成

No39 「印旛沼環境学習指導案集」の作成（水質保全課）

環境学習の実施をサポートすることを目的に、小中学校の教員が、日々の授業に無理なく印旛沼やその流域についての学習内容を取り込むことができるよう、小中学校学習指導要領に沿った指導案集を作成した。

令和5年度 「印旛沼環境学習指導案集」の活用を推進するため、印旛沼流域の公立小中学校教員を対象とした研修動画をオンデマンド配信した。

令和4年度 「印旛沼環境学習指導案集」を印刷製本し、印旛地区以外の流域の小中学校 178 校に計 894 部配布した。

令和3年度 「印旛沼環境学習指導案集」を印刷製本し、印旛地区以外の流域の小中学校 152 校に計 777 部配布した。

No41 環境動画の配信（環境研究センター）

環境や環境問題の現状について関心を高め、理解を深めるとともに、環境学習・環境保全活動を推進する人材の育成を行うことを目的とした環境動画を配信した。

令和5年度 視聴回数：88,736回

令和4年度 視聴回数：87,744回

令和3年度 視聴回数：100,257回

(2) プログラム・教材の活用

No45 環境学習教材等の貸出・ホームページ掲載（循環型社会推進課）

県が保有するプログラム・教材について、環境研究センターでの貸出しや県ホームページへの掲載等を通じて、学校や地域での活用を促進した。（令和5年度、令和4年度、令和3年度）

4 参加の場と機会の提供

【取組の方向性】

持続可能な社会の構築に向けて、環境問題を自らの問題として捉え、主体的に行動する人づくりを進めていくためには、多様な環境学習等の場や機会が必要であることから、本県の自然環境や地域資源を活かした体験活動の場や、学校や地域等様々な場での環境学習等の機会を充実させていくとともに、環境学習関連施設の積極的な活用と連携・協働を促進します。

【主な取組】

(1) 体験の機会の場の認定

No46 体験の機会の場の認定（循環型社会推進課）

SNS や県ホームページを通じて認定制度や認定の場についての周知を図った。

令和5年度 認定件数：1件（森の墓苑） 認定の場での体験活動：11回 121名

令和4年度 認定件数：1件（森の墓苑） 認定の場での体験活動：10回 86名

令和3年度 認定件数：1件（森の墓苑） 認定の場での体験活動：6回 119名

(2) 多様な学習機会の提供

No52 生命 (いのち) のにぎわい調査団事業 (自然保護課)

生物多様性に関心が高い県民が調査団員となって、身近な生物や外来生物などについて発見情報を報告してもらう「生命のにぎわい調査団」を運営して、団員向けに団通信を発行した。

令和5年度	生命 (いのち) のにぎわい調査団団員数	1,810名
	生命 (いのち) のにぎわい通信の発行	年4回
	団員向け野外研修会	2回開催
令和4年度	生命 (いのち) のにぎわい調査団団員数	1,733名
	生命 (いのち) のにぎわい通信の発行	年4回
	団員向け野外研修会	2回開催
令和3年度	生命 (いのち) のにぎわい調査団団員数	1,618名
	生命 (いのち) のにぎわい通信の発行	年4回
	団員向け野外研修会	2回開催

No54 千葉県地球温暖化防止活動推進員出前講座 (温暖化対策推進課)

県内各地域で開催される研修会や講習会等に千葉県地球温暖化防止活動推進員を講師として派遣した。

令和5年度	派遣件数	: 100件、参加者数	: 3,274人
令和4年度	派遣件数	: 108件、参加者数	: 2,474人
令和3年度	派遣件数	: 103件、参加者数	: 4,210人

(3) 環境学習関連施設等の活用と連携・協働の促進

No66 県民の森事業 (森林課)

各施設において自然体験等イベント事業を実施した。

令和5年度	施設利用者数	762,034人 (6施設年間計)
令和4年度	施設利用者数	751,439人 (6施設年間計)
令和3年度	施設利用者数	683,599人 (6施設年間計)

No70-125 各博物館における各種展示・講座・行事 (中央博物館ほか)

各施設において様々な展示や体験等イベント事業を実施した。

令和5年度	展示・イベント等に延べ約	224,000人が参加
令和4年度	展示・イベント等に延べ約	215,000人が参加
令和3年度	展示・イベント等に延べ約	158,000人が参加

(4) イベント等の実施を通じた参加機会の充実

No129 エコメッセちば (循環型社会推進課)

県下最大の環境見本市「エコメッセ in ちば」を開催した。

令和5年度	会場出展	: 65団体 入場者	2,300人、オンライン出展	20団体 視聴数	: 6,426 ^{*1}
令和4年度	会場出展	: 50団体 入場者	1,219人、オンライン出展	33団体 視聴数	: 7,033 ^{*2}
令和3年度	オンライン出展	60団体	視聴数	: 11,761 ^{*3}	

※1 R6.1.31時点 ※2 R5.1.31時点 ※3 R4.1.31時点

No130 環境月間ポスター作品の募集・表彰（循環型社会推進課）

環境月間の作品（ポスター）を募集し、その中から特に優秀な作品に対して表彰するとともに、作品を環境保全意識の普及啓発に活用した。

令和5年度 応募数1,087作品のうち、最優秀賞4、優秀賞8、奨励賞71の作品を表彰した。このうち優秀賞以上の12作品について表彰式を開催し、奨励賞以上の83作品について県立美術館にて入賞作品の展示を行った。

令和4年度 応募数1,237作品のうち、最優秀賞1、特選3、準特選6、奨励賞72の作品を表彰した。このうち準特選以上の10作品について表彰式を開催し、県庁にて入賞作品の展示を行った。

令和3年度 応募数936作品のうち、最優秀賞1、特選3、準特選6、奨励賞72の作品を表彰した。このうち準特選以上の10作品を、県内商業施設及び県庁にて展示を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、表彰式は不開催とした。

5 活動基盤の充実

【取組の方向性】

環境学習等の取組は、息長く実施していくことが重要であり、県民、学校、NPO等の各主体が継続的に環境学習等に取り組むことができるよう、SDGsの視点を取り入れながら、活動の人的、経済的基盤が安定するような環境づくりを進めます。

また、環境問題は時代に応じて変化していくことから、時代や社会の変化に対応した施策を展開していくための調査研究を継続的に行っていきます。

【主な取組】

（1）環境関連基金の活用

No135 ちば環境再生基金の活用（循環型社会推進課）

（一財）千葉県環境財団に設置された「ちば環境再生基金」による環境学習等への助成事業の活用を促進し、学校や地域における協働取組を支援した。

- 令和5年度
 - ・ 県民の環境活動への支援事業（87事業 14,307千円）
 - ・ 提案型環境再生事業（1事業 2,000千円）
 - ・ 環境活動見本市等普及啓発支援事業（1事業 2,072千円）
 - ・ 未来の環境活動担い手支援事業（4事業 400千円）
 - ・ 廃食油燃料利用促進プロジェクト事業（3事業 250千円）
- 令和4年度
 - ・ 県民の環境活動への支援事業（82事業 13,783千円）
 - ・ 提案型環境再生事業（1事業 2,200千円）
 - ・ 環境活動見本市等普及啓発支援事業（1事業 1,938千円）
 - ・ 未来の環境活動担い手支援事業（3事業 300千円）
 - ・ ちば廃食油燃料利用促進プロジェクト事業（3事業 300千円）
- 令和3年度
 - ・ 県民の環境活動への支援事業（68事業 11,163千円）
 - ・ 提案型環境再生事業（1事業 2,200千円）
 - ・ 環境活動見本市等普及啓発支援事業（1事業 1,245千円）
 - ・ 未来の環境活動担い手支援事業（4事業 400千円）
 - ・ ちば廃食油燃料利用促進プロジェクト事業（4事業 400千円）

(2) 民間資金の活用

No137 民間資金に関する情報提供 (循環型社会推進課)

民間団体や事業者が保有する環境関連基金や資金に関する情報収集・情報提供を行った。
(令和5年度、令和4年度、令和3年度)

(3) 表彰の実施

No138 千葉県環境功労者表彰 (環境政策課)

県内における環境美化又は環境保全活動の推進に顕著な功績のあった個人又は団体に対し、千葉県環境功労者知事感謝状を贈呈した。

令和5年度 贈呈10者(個人8名、2団体)

令和4年度 贈呈10者(個人6名、4団体)

令和3年度 贈呈7者(個人4名、3団体) ※新型コロナウイルス感染症の影響により表彰式は中止

(4) 調査研究

No140 環境保全に関する県民意識等の把握 (循環型社会推進課)

県政世論調査において県民の環境保全に関する意識や具体的な環境保全活動への参加状況等を把握した。(令和5年度、令和4年度、令和3年度)

6 協働取組の推進

【取組の方向性】

本県では、多様な主体による連携・協働を促進し、活動の普及啓発及び団体間の交流を目的とした県内最大級の環境イベント「エコメッセ in ちば」を市民、企業、大学、行政などのパートナーシップにより運営してきたほか、三番瀬や印旛沼・手賀沼、県内各地の里山・里海において、協働による環境保全活動が展開されてきました。

こうした取組の中で築き上げてきた多様な主体とのパートナーシップを継続・発展させ、それぞれの特徴や得意分野を活かしつつ、適切な役割分担のもとで、協働取組を推進するとともに、協働の輪が更に広がるよう、多様な主体の交流の場づくりに取り組みます。

【主な取組】

(1) 多様な主体との連携・協働の推進

No142 三番瀬ミーティングの開催 (環境政策課)

多様な主体から意見聴取する場として、漁業関係者、地元住民、NPOなどが参加する「三番瀬ミーティング」を開催した。

令和5年度 21名参加

令和4年度 書面開催

令和3年度 書面開催

No143 環境学習等に関する交流・協働の場づくり (循環型社会推進課) ※令和4年度から開始

多様な主体による交流や情報共有を促し、連携や協働の契機とする講演会を開催した。

令和5年度 「露木しいな講演会」 65名参加

令和4年度 「谷口たかひさ講演会」 162名参加

(2) 若者との協働の推進

No146 インターンシップ実習生の受け入れ (自然保護課)

県庁インターンシップ実習生を受け入れ、生物多様性保全に関する知識の習得や情報発信を図った。

令和5年度 3名受け入れ

令和4年度 3名受け入れ

令和3年度 中止

No145 若者との協働による環境学習等推進事業 (循環型社会推進課) ※令和4年度で終了

若者が気軽に環境活動へ参加するきっかけや場を提供し、本県の環境活動をリードする若手人材の育成を図った。

令和4年度 若者をターゲットにした環境イベント、若者の交流を目的としたビーチクリーン、竹ワークショップ、秘密基地づくり等を若者が主体となり実施した。

計5回開催、延べ800名程度参加。

令和3年度 環境学習等に関する今後の施策立案(若手人材の育成、若者との協働)に当たり、環境活動を実践する学生団体等との意見交換を実施した。

(3) 事業者等との協働の推進

No148 食品ロス削減対策推進事業 (循環型社会推進課)

消費者、事業者等が食品ロス削減について理解と関心を深め、それぞれの立場から取り組むことを促進するよう、リーフレットやSNS等による情報発信や、県内のコンビニエンスストア、食品スーパーなどの店頭において「てまえどり」の啓発を実施した。

令和5年度 「てまえどり」啓発実施店舗 2,913店

事業者や関係団体で構成する「千葉県食品ロス削減ネットワーク会議」の検討結果を踏まえ、ちば食品ロス削減パートナー制度を創設した。

令和4年度 「てまえどり」啓発実施店舗 2,723店

事業者や関係団体で構成する「千葉県食品ロス削減ネットワーク会議」の検討結果を踏まえ、千葉県の事業系食品ロスの実態把握のため、事業者アンケート調査を実施した。

令和3年度 「てまえどり」啓発実施店舗 2,040店

消費者・事業者・関係団体・学識経験者で構成する「千葉県食品ロス削減ネットワーク会議」を立ち上げ、各構成員における取組状況や課題等について意見交換を行った。

【参考】千葉県環境学習等行動計画 概要（令和3年3月策定）

「ちばの未来を創る『行動する人づくり』～みんなでつくる持続可能な千葉～」を基本目標に掲げ、SDGsの視点や体験活動の手法を取り入れながら、「次代を担う若手人材の育成」、「幅広い世代への学習機会の提供」などの施策を展開していくこととしています。推進に当たっての4つの視点と推進施策として6つの分野で構成されています。

推進に当たっての視点	※ESD（持続可能な開発のための教育）…現代の様々な問題を自らの問題と捉え、身近なところから取り組み、問題解決につながる価値観や行動等の変容をもたらすための学習・教育
SDGsやESDの視点を取り入れる	… SDGsと関連付け、持続可能な社会づくりに寄与する視点で取り組むESD*を推進することが、SDGsの17全ての目標達成につながる
体験活動を通じた学びを実践する	… 自然・産業・文化等の地域資源を活かした体験活動により、地域への関心や愛着を深め行動につなげる
生涯にわたる行動に結びつける	… 子どもから大人まで、ライフステージに応じた環境学習等により生涯にわたって行動する人材を育てる
みんなが連携・協働し地域社会全体で取り組む	… あらゆる主体が連携・協働し、地域社会全体で取り組む世代間・地域間の交流を促進

推進施策	【主な取組】	
1 人材の育成と活用	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校や地域における指導者等の育成 (2) 次代を担う若手人材の育成 (3) 指導者等の人材の活用 (4) 県の率先取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs・ESDの視点を取り入れた教職員等への研修 ・SDGsの視点を持った若手人材の育成 ・学校や子どもエコクラブ等の活動支援 ・指導者等の人材をつなぐ仕組みづくり
2 情報発信・普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> (1) 環境学習等に関する情報の集約・提供 (2) 時代のニーズに合わせた情報発信・普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント、人材、プログラム、助成制度等の情報集約 ・SNSの活用
3 プログラム・教材の整備	<ul style="list-style-type: none"> (1) プログラム・教材の作成 (2) プログラム・教材の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体と協働でのプログラム・教材の作成 ・他団体の優れたプログラム・教材の活用
4 参加の場や機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> (1) 体験の機会の場の認定 (2) 多様な学習機会の提供 (3) 環境学習関連施設等の活用と連携・協働の促進 (4) イベント等の実施を通じた参加機会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の促進（体験の機会の場、環境学習関連施設等の活用） ・幅広い世代に対応した多様な学習機会の提供
5 活動基盤の充実	<ul style="list-style-type: none"> (1) 環境関連基金の活用 (2) 民間資金の活用 (3) 表彰の実施 (4) 調査研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちば環境再生基金、地域環境保全基金の活用 ・民間資金の情報収集、活用促進 ・県民意識、先進事例の調査研究
6 協働取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> (1) 多様な主体との連携・協働の推進 (2) 若者との協働の推進 (3) 事業者等との協働の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体間の交流、情報交換の機会の提供 ・若者、事業者等との協働取組の推進